

かさま 市民力

このコーナーでは、市民の皆さんが自らの活動で地域貢献している団体等を紹介し、掲載を希望する団体は市民活動課へご連絡ください。

■ 笠間市有害鳥獣捕獲隊 ■

代表者：大須賀正弘（下郷）
設立：平成 18 年
会 員：30 名



捕獲隊の皆さん



大須賀正弘さん（隊長）より

最近、イノシシといっても、その多くがイノブタで、繁殖力が高く個体数は年々増加しているように思います。また、山沿いの谷津田や畑の耕作放棄地の増加に伴い、里に下り、中には庭先での目撃も増えています。春は竹の子やいも類、夏は飼料作物、秋は稲や果樹と年間を通じて被害が発生しています。

捕獲隊は、鳥獣保護員及び市と協議しながら、住みよい環境をつくるために、わなや銃器によって有害鳥獣の捕獲に取り組んでいます。また、捕獲隊では、毎年、有害鳥獣の捕獲を行う前に射撃訓練を行い、技術の向上や安全管理にも努めています。

農作物等の被害軽減を目指して

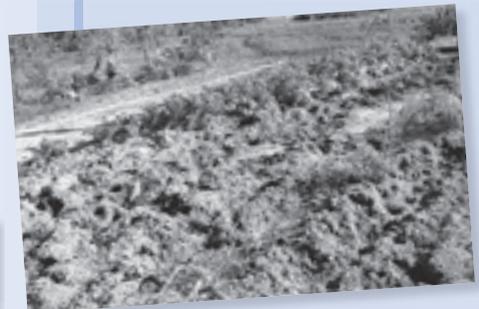
合併前の旧笠間市、友部町、岩間町でも、有害鳥獣の捕獲を行っていましたが、合併を機に、平成 18 年度に笠間市有害鳥獣捕獲隊を設立しました。

特に、イノシシ等による農作物の被害が年々増加しています。農家では山に近い場所の農地に防護ネットや電気柵を張り巡らせて対処していますが、被害は市内全域で発生しており、自衛手段だけでは苦慮しているのが現状です。捕獲隊では、猟期以外に市の要請を受け、30名の隊員を編成して有害鳥獣の捕獲を行っています。昨年度は3回実施し、イノシシ 27 頭、カラス 60 羽、ハクビシン 1 匹を捕獲しました。

本年度も実施を予定しており、実施時期は広報等でお知らせしますが、山に入る際は、見通しの良い道を利用したり、ラジオ等の音響機器を持って隊員に自分の存在を知らせたり、目立つ格好・服装をするように心がけてください。



捕獲に向かう隊員と猟犬



イノシシの被害にあった畑



電気柵が設置されている水田



捕獲活動に使用する四輪駆動車